

9月号



ハニ養だより



青森県立八戸第二養護学校

平成30年8月27日

校長だより



「校長の夏休み日記」



校長 上澤 司

7月28日（土曜日）

体育館で、「卒業生の集い」がありました。今年は、平成28年度に本校高等部を卒業された方々の「成人を祝う会」と、卒業生みんなが友好を深め合い楽しむ「夏祭り」の2部構成でした。成人を迎えた方々からは、充実した近況報告がありました。どの顔も誇らしげで、嬉しく思いました。「夏祭り」では、カラオケで自慢ののどを披露し、くじ引きやルーレットなどのゲームを楽しみ、かき氷や綿あめを美味しくいただきました。何年経っても本校を懐かしみ学校に足を運んでくださる卒業生の皆さん、ありがとう。

8月5日（日曜日）

五所川原の立佞武多に参加しました。遠い場所で、それも遅い時間の開催だったため、本校からは数家族しか参加できませんでしたが、高さ23mの大きな山車と一緒に「ヤッテマレ！ヤッテマレ！」のかけ声とお囃子・太鼓に合わせて、町中を練り歩きました。初めて会う子どもたちとおしゃべりしたり、車椅子を押してあげたりして、他の特別支援学校の子どもたちとも仲良くなりました。私にとっても貴重な体験でした。



8月19日（日曜日）

全国特別支援校知的障害教育校PTA連合会の全国大会が京都で開催され、出席しました。今回は、中里前PTA会長が、八二養と八高支のPTA分離に向けた取組について発表をしました。6月から田名部会長、名久井副会長も発表資料の作成に携わり、当日はお揃いのポロシャツを着用して応援しました。中里さんの発表は観衆から大きな拍手をいただきました。大変素晴らしかったです。

大会の講演会では、次男がダウン症であることを公表している、タレントの奥山佳恵さんのお話を聞きました。「生きてるだけで100点満点」という演題で、次男誕生から障害宣告を受けた瞬間のこと、自分を責めた日々、旦那さんが覚悟を決めるまでの経過のこと、自分の母親に伝えた時の複雑な気持ち、母親からの優しい心遣い、長男が障害受容に至ったエピソード、就学時期の葛藤・・・それらを乗り越えて、今は日々の子育てを楽しみ、次男が「かわいくてしょうがない！」と言い切る佳恵さん。私も明日からまた頑張ろうと思えた講演会でした。